

令和7年度 総務常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 藤村 優佳理 (副委員長) 滝口 友美

(委員) 金田 俊信 (委員) 岸 正明 (委員) 水島 誠司 (委員) 杓木 太郎

2 観察日時

令和7年10月10日 (金曜日) 午後1時30分から午後3時00分

3 観察先

愛知県大府市

4 観察事項

- (1) 週休3日制の導入について
- (2) 若手の声が生きる職場づくりについて

5 観察概要

	(担当 金田 俊信)
観察先選定理由	人口減少社会を迎えるにあたり、有為な人材を市職員として今後確保していくためには働き方の改革が必要である。また、採用した若手職員が意欲を持って働くことで離職率を減らし、自治体職員としての育成を図ることの重要性が高まっていくことから、上記観察事項を選定した。
内 容	<p>(1) 週休3日制について</p> <p>週単位での変形労働時間であり、1日の労働時間を他の4日間に振り分ける形である。勤務日の所定勤務時間の前後に勤務時間を追加することになる。2週間前までに所属長に申告し許可を受ける形。</p> <p>より柔軟な働き方が可能となり職員のモチベーションアップにつながったと評価している。令和7年度より本格導入したこともあり全面的な評価は今後下すことになる。現時点では完成された制度ではなく、今後より洗練された制度となる可能性がある。</p> <p>(2) 若手の声が生きる職場づくり</p> <p>事務改善成果発表会で事務改善の成果報告を行い表彰することで、若手職員に成功体験を積ませる。メンター制度により新規採用職員の精神的なサポートを行う。主任級職員にキャリアデザイン研修を行うことで、職員自身にキャリアプランを描かせ自己実現を目指させることで職務への意欲を涵養する。</p> <p>これら取組の成果は短時日では下せず、一定のスパンで測る必要がある、具体的な取組は年度によって異なることもある。</p>

考察 ・本市との比較 ・本市への事業導入の可能性 ・今後の検討内容	人口約9.3万人と本市と比較すれば小規模であるが、名古屋近郊で民間も含めて多様な働き口があり、人材が流動的であるという点においては本市と共通点がある。大府市は近隣自治体も含めて働き方改革に取り組んでいることから、試行錯誤も含めて様々な施策を行っている。週休3日制は、その中で目立つ施策であることは明らかであり、新規職員の採用に当たって十分にアピールポイントになり得ると感じた。本市においても職員の意向を十分にくみ取る必要はあるが、今後採用を検討してみる価値はあると考える。また、若手職員に成功体験を積ませることでモチベーションを引き出すことは職員育成上有効であるが、その具体的な方策は自治体あるいは部署ごとに適したもののが異なることから、本市においても各部局において検討を図るべきであると感じた。
備考	